



慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究機構教授
中村伊知哉

「反転一闇社会の守護神と呼ばれて」 (幻冬舎)

選んだ理由

IT書でもビジネス書でもないが、政策屋としては考えさせられるところがあったので。鈴木宗男、佐藤優著「反省」(アスコム刊)と併読することを勧める。「反転」は法務省/検察のお話。「反省」は外務省。国策なるものがどのようにしつらえられるのか、その暗部に照明を当てている。しかも、政治家だけでなく、役人も含めて、実名がバンバン出てくる。いかなる政策も個人が企画し、個人が執行する。特に官僚はそのリスクも責任も官庁という組織の背後に隠されてきた。しかし、仕事の功績は個人として讃えられ、不作為の責任も個人として責めを負うべき部分がある。どうやら、政策も個人の業績と責任が問われる時代になってきたようだ。これは政策がポピュリズムに流れる危険性ははらむものの、大きな流れではきっと望ましい方向にドライブする力となるだろう。



画像提供：アマゾン
マソンのサイト
にリンクし
ます

Vol.44
2007.8.20